



アンドリュー・マイクセル  
Andrew Mikesell  
アメリカ出身

冬が近づいて来て、寒くなりましたね。

クリスマスと感謝祭を祝う国から来た ALT にとってこの季節は、特にホームシックになる時です。僕は日本人と結婚していて日本にも家族がいるので、少しマシです。

日本での初めての冬は妻と彼女の実家がある兵庫県へ行き、妻の両親と弟と正月を過ごしました。僕がとても好きな京都を訪れ、いくつかの寺院と庭を見に行きました。僕は龍安寺が一番好きでした。龍安寺には天井にすごく迫力のある龍の絵が書いてある建物があります。2年前に訪れた夏の京都はとても暑く、とても寒い冬の京都に少し驚きました。

去年の冬は松浦で過ごしました。僕と妻は、素敵な家族に年越しのパーティーに招待されました。おいしい食べ物をごちそうになり、楽しい話もたくさんしました。その家族のおかげでとてもいい年越しをすることができました。とても素敵な家族と友達になることができ、いつも親切にしてくださるので僕たちはとても感謝しています。

僕は今年の冬も松浦で過ごします。妻の両親が松浦へ来て、一緒にクリスマスを過ごす予定です。今年のクリスマスは娘にとって初めての特別なクリスマスです。今年一番の思い出になるよう、僕は娘に素敵なプレゼントを見付けなければなりません。

皆さんも素敵なクリスマスを過ごせますように！



## 図書館の おすすめ本

市立図書館  
☎ 0956-72-4677

松浦市ホームページで  
「松浦市立図書館」を検索



### 『セーターから小物まで 毛糸玉使いきりニット』

文化出版局

アイデアいっぱいの編み物の本が届きました。14人の人気ニットデザイナーによるセンスあふれる競作集です。残り毛糸をこんなふうにならせたと思うヒントがたくさん。眺めていると制作意欲がわいてきます。

今年こそ編み物にチャレンジしてみませんか？



### 『クリスマスのおばけ』

せなけいこ/ポプラ社

クリスマスのはうれしいな。ケーキにごちそうにプレゼントに。

でもおばけちゃんはどうしているのかな？

子どもがおばけを思いやる気持ちに、にっこり。クリスマスに幸せな気持ちになれる絵本です。

### ◆◆◆あかちゃん・子どものお気に入り◆◆◆

このコーナーでは図書館に来てくれたあかちゃんや子どもたちのお気に入りの一冊を紹介します



志佐町浦免の中別府朋子さんと凜ちゃん（1歳）

#### 【お気に入りの本】

『スプーンさん』、『コップちゃん』 中川ひろたか/さく ブロンズ新社

#### 【お母さんからひとこと】

生後10か月ごろに図書館でこの本に出会い、かわいいイラストとリズムのよい文章ですぐ好きになりました。本を持って私に差し出し「はいどうぞ」と、読んでほしい！のアピールをしてくれます。借りた本を壊してしまいそうなほど何度も読みました。少し大きくなった今では動物の絵本などたくさんの事に興味を持ち、絵本で覚えた「チッチ」や「ガーガー」、「わんわん」「にゃんこ」「りんご」「ぞうさん」など指さしながら言葉がどんどん出ています。またいろんな本との出会いを楽しみに図書館を利用したいです。

※図書館ではお母さんとあかちゃんの来館もお待ちしています！

中世の松浦 (59) 鷹島海底遺跡

10月9日から23日まで琉球大学の研究チームによる鷹島海底遺跡の学術調査が実施され、松浦市も調査に参加しました。

今回の調査では、昨年度調査した元の軍船の調査地点から北側に約100メートルの水深約20メートルの海底面下約1メートルの位置で、これまでに長崎県や鷹島町で行ってきた発掘調査では出土していない碓石と木製碇が発見されました。

鷹島ではこれまで36本の碓石が発見されていますが、いずれも長さが約1メートル前後で「分離型碓石」と呼ばれるものです。

今回の碓石はこれまでのものと長さが異なり約2・5メートルの石で造った「一石型」といわれるものでした。

また、木製碇も樹木とこれから伸びる枝の部分を利用した一本で造られており、鷹島海底遺跡では、初めての出土例となりました。

「一石型」は一般的に商船用に使用されていることから、調査にあたった池田榮史教授は、当時は頑強な軍船や大急ぎで建造した粗悪な船など多種多用な船で日本を襲った可能性があると指摘されました。



▲ 木製碇 (左: 碇身, 右: 碓石)



▲ 木製碇 (上: 碇身, 下: 碇歯)

④ 養源小学校  
ワークショップ

景観づくり通信

● 問合せ先 都市計画課都市計画係 ☎ 内線 252、253

11月14日に、養源小学校において「体にいいおいしいお弁当を作ろう！」をテーマにワークショップを開催しました。このワークショップは、弁当の献立作りを通じて、福島町にある食材について知り、それらの背景にある地域課題を学習することを目的としています。

九州大学景観研究室テクニカルスタッフ 永村景子氏をコーディネーターに迎え、3～6年生13人と市職員9人が参加。保護者や教諭などが見守る中、選んだ食材から子どもたちが感じたことを基に、福島町が抱える課題についてグループごとに話し合い、「農業や漁業を受け継ぐ人がいないのが問題だ」「安心して食べられるものがなくなるのではないかと心配になった」といった意見を発表しました。

また、その後開催された学校保健委員会に、保護者、教諭、市職員などが参加。永村氏による「福島町の景観と食」をテーマとした講演を聞き、20年後に子どもたちに住みたいまちとして選んでもらえるよう、今できること、今やるべきことについて、活発な意見交換が行われました。

※養源小学校では、児童自らが弁当作りに挑戦する「お弁当の日」活動に取り組まれています。



▲ 弁当作りを通してどんなことを感じたかな？